

学習進行カード

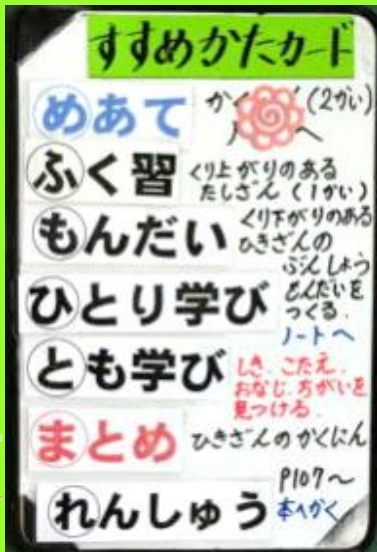


学習の流れを示した学習進行カードを活用することによって、児童が1単位時間の見通しをもって学習を進めることができます。終わった学習内容には、ガイド役の児童が花シール（中・高学年は赤丸）など目印になるものを付けると、今どこまで進んでいるかが児童にも授業者にも把握できます。

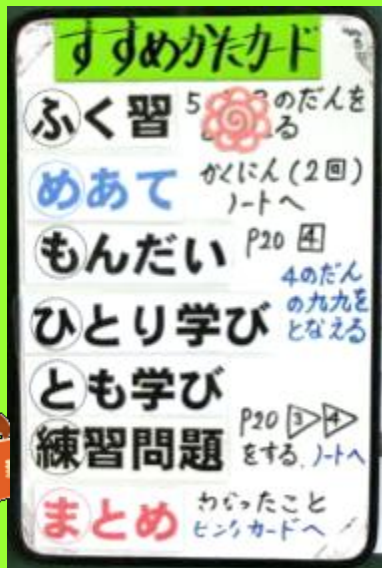
また、発達段階に応じて、時間配分についても進行カードに示すことで、意識して取り組むようになり、主体的な学習態度の育成にもつながります。

学習進行カードの例

1年



2年



6年

5年

1 本文を2回読む。 ・写真資料をもとに、戦争中の人々の暮らしを予想する。	5分	5分	1 本文を2回読む。 ・P112の写真を見て、モーターショーの会場に来た人々の思いを想像する。
2 めあてを確認する。 「戦争中の人々の暮らしは、どのようになっていったのだろう。」	3分	3分	2 めあてを確認する。 「将来、どんな車に乗ってみたいか、話し合おう。」
3 ひとり学び ・戦争中の人々の暮らしについて調べる。	17分	17分	3 ひとり学び ・自分が将来、乗ってみたいと思う自動車を考え、教科書のイラストのように、イラストや言葉で表そう。 (ノートに書く)
4 とも学び ・戦争が人々の暮らしに与えた行方について話し合う。	15分	15分	4 とも学び ・自分が将来、乗ってみたいと思う自動車について考えたわけを分かりやすく説明する。 (書画カメラで)
5 まとめ ・学習を通して、疑問に思ったことや気付いたことをノートに書く。	5分	5分	5 まとめ ・学習を振り返って、思ったことや考えたことをノートに書く。

ガイド役になった児童は、タイマーを使用すると、時間配分を意識して進行することができます。



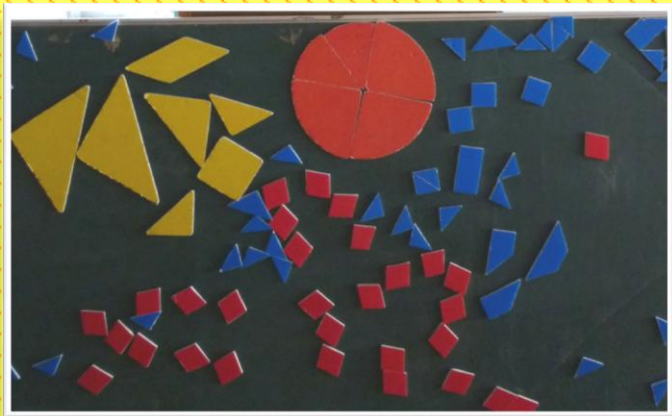
学習進行カードに、学習活動の大まかな時間の目安も記入すると、より見通しをもった学びができます。

算数コーナー

立体図形



タングラム



チャレンジコーナー



算数コーナー

教室前廊下などを利用して、「算数コーナー」を設置し、忘れやすい単位や単位の換算、公式、図形などを常時掲示することで、学びの定着を図ることができます。

掲示するものはラミネート加工しておくこと、授業で必要なときに「算数コーナー」から取り外して教室や黒板に掲示でき、すぐに使えて便利です。

各種単位

長さの単位	重さの単位	体積の単位
ミリメートル (mm)	グラム (g)	ミリリットル (mL)
センチメートル (cm)	キログラム (kg)	デシリットル (dL)
メートル (m)	トン (t)	リットル (L)
キロメートル (km)		立方センチメートル (cm ³)
		立方メートル (m ³)
1cm = 10mm	1kg = 1000g	1L = 10dL
1m = 100cm	1t = 1000kg	1L = 1000mL
1km = 1000m		1L = 1000cm ³
		1m ³ = 1000000cm ³
	角の大きさ単位	
	度 (°)	



算数の教具



平面図形

多角形	図形	四角形	三角形
三角形、四角形、五角形、六角形などのように直線で囲まれた図形		4本の直線でかこまれた形	3本の直線でかこまれた形
正多角形 辺の長さがみんな等しく、角の大きさもみんな等しい多角形	平行四辺形 向かい合った2組の辺が平行な四角形	長方形 ・4つのかどが、みんな直角になっている四角形 ・むかい合っている辺の長さが同じ	直角三角形 直角のかどがある三角形
	ひし形 辺の長さがみんな等しい四角形	正方形 4つのかどがみんな直角で、4つの辺の長さがみんな同じになっている四角形	二等辺三角形 2つの辺の長さが等しい三角形
	台形 向かい合った1組の辺が平行な四角形		正三角形 3つの辺の長さがどれも等しい三角形



学びの足跡

前学年までの既習内容や本単元での学習内容を掲示するとともに、前時のまとめや気付いたことを残すことによって、本時の導入等での復習や既習の想起に活用することができます。また、裏に磁石を付けておくと、取り外しや移動が簡単で、児童が必要なときに自由に活用することができます。

1台に5人ずつ3台で15人

かけ算のマーク

1あたりの数 5
いくつ分 3
ぜんぶの数 15

$5 \times 3 = 15$

「五かける三は十五」
 $5 \times 3 = 15$

1あたりの数 5 いくつ分 ぜんぶの数

（かけ算のマーク）
1あたりの数
いくつ分
ぜんぶの数

ポートが3そうあります。
1そうに2人ずつのっています。
ぜんぶで何人のっていますか。
 $1あたりの数 \times いくつ分 = ぜんぶの数$

1あたりの数 \times いくつ分 = ぜんぶの数

かけ算

10時 10時15分

時間 →

家を出た 時こく バスにのった 時こく

1時間 = 60分 1日 = 24時間

午前 午後

4cm 3cm 2cm 1cm

1cm 1cm 1cm

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

数直線
はしをそろえる。

長さは、1センチメートルがいくつ分あるかであらわします。センチメートルは、長さのたんで、cmと書きます。

1cmを同じ長さに10に分けた1つ分の長さを1ミリメートルといい、1mmと書きます。mmも長さのたんです。

1cm = 10mm

算盤のひき方
1. 算盤をひく。 2. 算盤のひき方。 3. 10の位に繰り下す。
4. 繰り下す。 5. 繰り下す。 6. 繰り下す。

長さは、1センチメートルがいくつ分あるかであらわします。センチメートルは、長さのたんで、cmと書きます。

1cmを同じ長さに10に分けた1つ分の長さを1ミリメートルといい、1mmと書きます。mmも長さのたんです。

1cm = 10mm

まとめ
角柱や円柱の体積は、
底面積 \times 高さ
で求められる。

まとめ
単位量あたりの重さと全体の重さから、長さを求める方法は「単位量あたりの大きさ \times 何こ分 = 全体の量」の式に当てはめると解くことができる。

（ノートの約束）
・日付け、ページ数、問題番号を書く。
・答の単位には赤丸を付ける。
・気付き、考え方を自分の言葉で書く。
（加法・減法のマーク）
分かってること
問われていること 下に+かー

博物館の今日の入場者数は、昨日より95人多く、382人でした。昨日の入場者数は何人ですか。

2. 8mのリボンを、1人に0.7mずつ配ります。何人に配ることができますか。
 $ぜんぶの数 \div 1つ分の数 = いくつ分$

1. 5mのホースの重さははかったら270gでした。このホース1mの重さは何gですか。
 $ぜんぶの数 \div いくつ分 = 1つ分の数$

（乗法・除法のマーク）
1つ分の数、元にする量、単位量
いくつ分、倍、割合、%
ぜんぶの数、比べられる量

1mの重さが180gのホースがあります。このホース1.6mの重さは何gですか。
 $1つ分の数 \times いくつ分 = ぜんぶの数$

まとめ
面積を求める公式が分かっている図形と見ると、およその面積が求められる。

（ノートのやくそく）
・日付け、ページ数、もんだいはんごうをわすれずにかく。
・こたえのたんいにはあかまるをつける。
（たしざん・ひきざんのマーク）
わかってること
きかれていること 下に+かー
きつてが9まいあります。
ふうとうが3まいあります。
どちらがなんまいおおいでしょうか。

わかっていること きかれていること

しき こたえ

13-9の けいさんの しかた

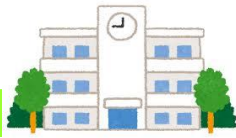
3から9はひけない。
13を10と3にわける。
10から9をひいて1。
1と3で4。

$13 - 9 = 4$

$10 \quad 3$

しき
 $3 + 2 = 5$
3たす2は5
こたえ 5ひき
あわせて みんなで
ぜんぶで
ふえると

しき
 $5 - 2 = 3$
5ひく2は3
のこり とる
のこりは **1ちがい**



学習の手引き



「学習の手引き」とは…

学習の目標や学習の進め方・学習の手順を示したものです。児童が間接指導時に「学習の手引き」に従って学習を進めることで、学び方を習得することが期待されます。また、活用のねらいによって、学習の手引きの種類も異なります。

「学習の手引き」の種類

教科・領域レベルの手引き

各教科や各領域等における学習の進め方を示したもので、同教科または同領域でどの教材にも適用できます。



【学習リーダーの手引き（算数）の例】

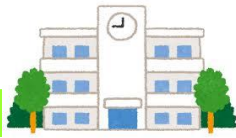
算数 学習リーダーの手引き（中学年）	
学習の流れ	学習リーダーの言葉
開始・目標をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> 今日の問題をいっしょに読みましょう。 「分かっていること・求めることは何ですか」 今日の目標は <input type="text"/> です。
1人学びをする	<ul style="list-style-type: none"> 自分で読んでみましょう。時間は○分間です。（○時○分までです。） でせんとん除算ホワイトボード（黒板）に書いて解法の書き方をしましょう。 図をかく。 ふき出しをかく。 訂正し、答えを出す。 たしなめをする。
とも学びをする	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守りました。今していることをやめてください。 もう少し時間がほしい人は手を上げてください。 何分経ちましたか？（おんなじに聞いてから先生に聞く。） ○分間時間を延長します。 できている人は解法の書き方をいかに考えてください。
準備	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードを持ってください。（黒板に書いてください。） 準備がけをします。 同じ考えやしている考えの人ははいりません。
発表	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことを発表してください。 ○さんからの問いに、まだ書けていない人は口で発表してください。 付けたしはありますか。 質問や確認はありますか。 黒板に発表してもらおう。
同じところを見つめる	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの発表を聞いて、何か気づいたことはありますか。 出てきた考えで、同じところはありませんか。 黒板に発表を付けていたり、カラーボードに矢印だとか思うことを書いてみる。
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習のまとめをします。 今日の学習で分かったことや、気づいたことは何でしたか。 でせんとん除算を黒く。（カラーボード） 先生とめを話し合います。
学習時間をする	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間を聞いてください。 時間は○分です。 時間を守りました。やめてください。 答え合わせをします。→黒板に書いてください。（発表してください。）
算数日記を書く	<ul style="list-style-type: none"> 算数日記を書いてください。

単元・1 単位時間レベルの手引き

ある単元や1 単位時間の学習の進め方・内容を示したもので、それぞれの単元や1 単位時間の思考過程を踏まえ、深化を図ることができます。

「学習の手引き」作成上の留意点

- 教科書の内容を細分化し、学習の順序にしたがって再構成する。
- 目標達成のための学習方法や学習の流れを具体的に明記する。
- 直接指導と間接指導の組合せを考慮する。
- 時間内に自己評価や相互評価ができるようにする。
- 児童の発達段階を踏まえ、意欲的に取り組めるような内容や表現を検討する。

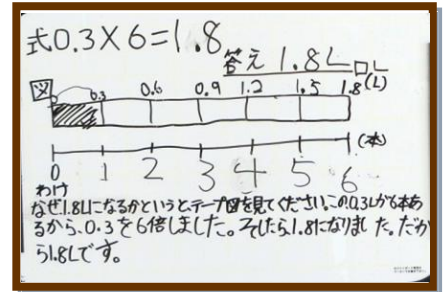


発表ボード



「発表ボード」の活用

発表ボードは、児童が話し合いながらそれぞれの考えを練り上げていくときに活用します。また、教師が間接指導から直接指導にわたってきたとき、この発表ボードにかかれた児童の考えを把握することで、スムーズに直接指導に入ることができます。



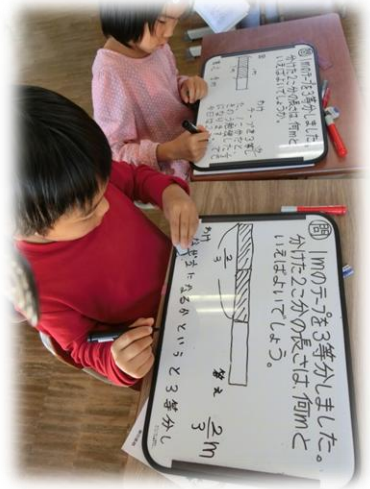
発表ボードには、自分の考えを適確にかけるようにしていくことが大切です。



「発表ボード」の段階的指導

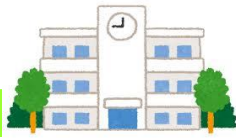
児童が分かりやすい発表ボードをかくことができるようになるには、6年間を見通した段階的な指導が大切です。例えば、次のような各段階が考えられます。

- 1 自分が考えたことをそのまま書かせるなど、話し言葉で書く段階
- 2 文字がたくさん並び、見る人が分かりにくいことを理解し、かくことを精選する段階
- 3 自分の言いたいことを四角囲みや色チョークで強調したり、矢印を使って流れが分かりやすいように工夫したりする段階



ボードに上手にかけるようにするためには、よくかけているボードを取り上げて、教師が価値付けることが重要です。そのことを通して、児童は分かりやすいかき方を具体的に理解することができます。





ガイド学習



ガイド学習とは…

間接指導の時、児童（ガイド：学習の進行役）が、教師の立てた学習進行計画に従い、リードしながら相互に協力し合い、助け合いながら学習を進める学習形態の一つです。



ガイド学習のねらい

- * コミュニケーション能力を高める。
- * 主体的な学習態度を養う。
- * 学習の効率を高め、個別指導を充実させる。
- * 目指す学びの姿を児童に意識付ける。

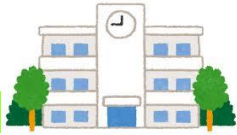


ガイドの役割

ガイドは事前に教師と話し合い、学習の計画の確認をしたり、その計画に基づいて学習を進行したりします。また、授業における役割を整理すると、次のようになります。

- 1 学習の準備をする役割（学習の見通し）
主体的に学習の準備をしたり、他の児童に指示したりする。
- 2 学習の進行をする役割（司会進行、学習内容と手順の理解）
教師の指導のもとに立てた学習の計画に沿って学習を進行させる。
- 3 学習のねらいに迫る役割（学習のまとめ）
他の児童と協力し、励まし合いながら、全員がねらいに到達できるよう配慮する。
- 4 学習の体制を整える役割（活動のルール）
学習態度に注目し、よりよい学びができるよう、学びの調整を行う。





ガイド学習



ガイドの育成

ガイドの育成は、短期間にできるものではありません。そのため全教職員共通理解のもと、学校全体で段階的に繰り返し指導することが大切です。

具体的な指導についての留意点は、以下のようなことが考えられます。

具体的指導の留意点

- 1 低学年から段階的にガイドを育成する。
- 2 ガイドの育成は決して急いではいけない。
初期の段階では、できるだけ失敗の経験をさせないように配慮し、少しでも良かったところを褒め、次の目標を与え励ましていくようにする。
- 3 授業の中では教師のまねをさせていき、次第に高めていくようにする。
*教師がガイドをやってみせる。
*ガイドに進行させ、教師がそばで指導する。
*段階を踏み、ガイドに任せると決めたら任せる。
- 4 上学年の学び合いの場を下学年に見せてガイドの仕方を具体的に学ばせる。
- 5 上手になった点を少しでも見つけて褒めるなど、教師による価値付けを積み重ねたり、帰りの会等でガイドの良かった点を出させて、友達同士で認め合う場を設定したりして、意欲を高める。
- 6 ガイドに対する指示は、ガイド進行表、ガイドメモなど、段階的に学習を進行できるようにさせる。
- 7 同単元指導や同時導入、あるいは学習形態を工夫するなどし、ガイドの方法を全員で学ぶ場を設定する。

ガイドの選び方

ガイドは、学級の誰もがその役割を果たせるように育成していくことが望ましいです。そのためは、全教職員共通理解のもと、低学年から学年の発達段階に応じて、ガイドを育成していくことが大切です。

また、ガイドの初期の段階では、その教科においてリーダーシップをとれるような児童をガイドにすると学習が進めやすいこともあります。





ガイド学習



進行役に慣れさせるために

児童によっては、みんなの前で話をすることを苦手を感じる児童もいます。そこで、低学年の頃から、簡単な進行役として全員の前に出る機会をつくり、進行役に慣れる経験を積み重ねていくことが大切です。こうした経験が、全員の前でも話することができるという自信となるとともに、表現力の育成にもつながっていくことが期待されます。

低学年時からのガイドの育成

小規模校においては、単式学級と複式学級が存在している場合があります。こういった場合、複式学級のある学年のみがガイド学習に取り組むというように、単発的な指導ではガイドが育ちにくいです。そのために、該当学年の児童が中・高学年になってから複式学級になっても、円滑にガイド学習が展開できるようにするためには、単式学級であっても6年間を見通してガイドを育成することが大切です。

期待するガイドの姿

スモールステップでの指導

低学年

- * 学習の準備ができ、進行表に従って進めることができる。
- * 公平に指名することができる。
- * 指示したことがみんなに伝わっているかを確認できる。

中学年

- * 多様な意見を整理し、大まかにまとめることができる。
- * 反対意見や補足意見を大切にすることができる。
- * 学習したことを簡単にまとめることができる。

高学年

- * 多様な意見を整理し、共通点と差異点を判断できる。
- * 話し合いの内容を自分の言葉でまとめることができる。

